



KAHF ニュースレター

〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町2-2 国際交流会館3F

財団法人 京都国際文化協会内

京都ホストファミリー協会 (KAHF)

No.22

2023年3月発行

2023年度 行事予定

4月16日(日)

ウエルカムパーティ

5月

春のハイキング

6月

料理教室

10月

御所散歩

11月

ハイキング

2024年

1月

新春親睦パーティ

2月

凧揚げ大会

3月

総会・会員の集い

KAHFと共に

今から30数年前、私がまだ30代前半の頃、京都府、京都市のホストファミリーをしながら英語の勉強会に参加し、そこで知り合った前田様（ご主人が京都大学理学部の教授でいらっしゃいました）に誘われKAHFに入会いたしました。最初は子供も小さく一会員として紹介された留学生と交流し行事のみに参加しておりました。

その当時カーフのグループは6つぐらいあったような気がします。途中大きくAB2つのグループになり私はAグループに所属していました。世話人になって会の運営に携わるようになってもう20数年経ちました。

谷垣先生の研究室で月1回の例会も若かったせいか色々なイベントを考え実行するのが楽しく留学生、ファミリーも増え大所帯になりました。

インターネット環境が整い、携帯電話、パソコンが各家庭に普及しはじめた頃、ホームページを作ることで、今のネット社会では考えられぬことに不安を覚え心配しながらみんなで話し合ったことなど思い出してもきりがありません。

連絡事項も手紙、ファックスからメール、ラインへと代わり留学生も米国、ヨーロッパの国から中国、韓国、東南アジア、アフリカと変化し、留学生の数も我が国の政策のため増え続き、彼らの取り巻く環境も変わってきました。

我が家も子供たちが巣立ち、私もいつの間にか年を取り今までのように頭も働かなくなり、急速な社会の変化に戸惑いながら必死であがいております。勤めた経験もない一主婦が、人生の半分以上をカーフに携わりチョコッと社会参加をしている気分を味わいながら、又自分だけのネットワークがボランティアを通してどんどんでき、広がりを楽しんでおります。日本で就職したり、家庭を持ったりこれから結婚する元留学生、故国に帰り活躍している彼らとFBでつながりそれも楽しみの一つになっております。

4年前に始まったコロナ禍で、カーフ全体の活動はほぼ休止状態になりましたが、そんな中でもできることを模索しながら活動を続け次世代に何とかバトンタッチができればと思っている次第です。



(A-2 高橋幸子)

2022年度会務報告

2022年度に21名の新しい留学生（No.2168～2189）を受け入れてHF をマッチングしました。例年50～70名の申し込みがあった留学生数が新型コロナウイルスの蔓延およびそれに対する外国人の入国制限措置のために2019年度は41名、2020年度は16名、2021年度は5名の状態でしたが、本年度は来日条件の緩和もある程度進み3年前の状況に戻ることを期待できるようになってきております。

新規参入のHFは4名です。よろしくお願いたします。また、退会HFは3名でした。これまでのご協力を深く感謝します。この結果、現在の会員は90ファミリーとなります。HFも高齢化が進み、留学生の受け入れが難しくなっていますので新規HFの開拓がKAHFの発展のための必須条件になっています。

2022年度に Brother/Sister(B/S)プロジェクトへの新規登録はありませんでした。B/S 会員は卒業・就職などで自然退会も多く現在の活動会員は8名程度です。

KAHFの活動はHFおよびB/Sと留学生の1:1の交流が中心です。この1年間各HFは工夫を凝らして新型コロナウイルス感染の予防措置を工夫して交流をしましたが予定した全体での行事は殆どキャンセルせざるを得ず、実施できたのは食事（パーティー）を伴わない下記の戸外での活動に限られました。

2022.5.22 ウェルカム・ミーティング(春)

2022.9.17 留学生を囲む会





Welcome Meeting 5月22日(日) 14:00~ 御所にて

コロナ禍の蔓延防止のために留学生の来日がストップされていた。やっとその規制が緩められるとこのことで、本年度最初の行事であるウェルカム・パーティーを5月22日に、戸外で、食事なしという形で実施した。参加者が少ないのではないかと心配したが、HFが25名、HFのいる留学生が8名、新しい留学生7名が参加した。京都御苑の乾門内に集合し、まず京都御所の見学をした。その後御苑内の散策を予定していたが、皆さんお疲れということで、円陣を組んでまず自己紹介をし、自然のマッチングを試みた。HFの皆さん積極的で7名の新規留学生全員のHFが決定した。今後マッチングの1方法として一部取り入れるのもよいかもかもしれない。午後4時、三々五々の流会となった。



留学生を囲む会(研究余談) 9月17日(土) ひとまち交流会館・京都

参加者22人

ここ3年間コロナ禍でなかなかイベントを開くことが出来ませんでした。今回A5土井美奈子さんの発案で留学生の研究発表会を開催することが出来ました。発表者は今年修士課程に入ったばかりの鄧瑾瑄(トウキンセン)さん(中国留学生)です。専攻は言語学です。発表内容は我々が普段何気なく話している会話の中から彼が見つけた日本語の不思議についてを学術的に分析したものでした。彼は日本語を勉強始めてまだ5年ということですが、研究とはこういうものなのかと、私は深く感心した次第です。他の方もとても興味深く聞かれていたようです。

KAHF 留学生を囲む会 (研究余談)





10月16日(日) ウェルカム・ミーティング

雨の予報が覆って、お天気に恵まれたウェルカム・ミーティングになりました。タイからの新しい留学生4名、シスター2名、ブラザー1名、そして約25名のファミリーが集まって、各自が持参した昼食の後、自己紹介、ゲーム(けん玉、カラー合わせ)歌などしました。打ち解けたところで、マッチングをして、おかげさまで4名それぞれにホストファミリーが決まりました。御苑の中を三々五々散歩しつつ、帰途



11月26日(土) JR 保津峡駅から清滝・嵐山への紅葉狩りハイキング

紅葉の美しいハイキング日和の一日、行楽客を避けて紅葉狩りハイキングを行いました。JR 二条駅 10時出発、学生6人HF8人計14人の参加。学生は外資系企業に就職したばかりの学生(広島から駆け付けました)やウクライナからの避難学生などで話題の尽きない学生ばかりでした。落合までは絶景の保津峡を眼下に見ながらトロッコ電車や遊覧船に手を振りのんびりと歩きました。落合から清滝まではハイカーとすれ違ったり滑りそうな岩場をおそろおそろ歩みつつ赤く染まった紅葉を鑑賞しました。昼食は清滝川の河原で済まし、帰りは全員が嵐山まで歩くという元気の良さで、電車廃線トンネル、鳥居本、や二尊院、竹林など街道筋の景色を楽しみました。嵐山で流れ解散しましたが、学生達は天龍寺渡月橋で写真撮影を楽しみました。





『凧上げ』 2023年2月26日(日) 参加者19名(子供3名)
制作：左京西部イキイキセンター 凧上げ：出町柳デルタ



コロナで1月の新年会が流れ、待ち望んだイベントでした。
まずは早めのランチを済ませ、西村さんの指導のもと『グニャグニャ凧』を作りました。
始めに白ビニールをカット、思い思いの絵を書き竹ヒゴ2本で軸を作り糸を通して出来上がり。和気あいあいと1時間足らずで作成、全員の集合写真を撮り鴨川へ。



朝は、うっすら雪が積もり冬特有の時雨もありでしたが、凧を挙げ始めると陽もさし、皆さんのテンションもあがってきました。
最初からグングン挙げる人、凧同士が絡まる人、当初低空落下を繰り返した人もコツを掴んで最後には空高く挙げたり……。
鴨川の反対岸まで挙げ川に落下、レスキューしたら川の流れは強く引き上げ時は骨組みがやられてしまったり……。

ひときわ目を引いたのは、白ビニールをほぼ黒く塗り高く挙げた凧『うーんステキ！』
初参加の私は、色づけする事を学びました。

コロナを恐れる事なくノビノビ凧揚げできる気持ち良さ、皆さん童心にかえり心から楽しんでる様子が印象的でした。(島田)



異国からの結婚式招待状

A-1 鈴木道子

それは2016年春のウェルカムパーティーでの事でした。ルーマニアからの女子留学生ダニエラ・サーカとの初の出逢いがありました。世話人としてお茶当番に立っている私に親し気に明るく「私のホストファミリーは何時決まるの？」と待ちきれない様子で尋ねてきました。思わず不用意に「私で良ければ、ホストしましょうか？」と応えていました。彼女は大変な才媛で本国ルーマニアでは小児科のドクトルです。京都大学医学部の大学院でエイズウィルスの研究をしたいという夢を実現したのです。ルーマニアでは奨学金ではなく学費は全て免除という超特権を得ての学歴です。大きく広く前向きで陽気で明るい人柄に圧倒されながらの交流でした。留学中にもすぐに国際学会で発表する機会が国の内外であり研究室での存在感を察する事ができました。

そしてプライベートには別の大学で国際法を学んでいたエストニアからの留学生と恋仲になり婚約、結婚と発展しました。此方の綺麗な緑の目をした彼氏も異能な程の秀才で達者な日本語に謙虚で優しいお人柄です。夫君がひと足早く修学し東京で職を得て二人して上京。ダニエラは学位授与までの最終期間は(その頃はコロナ禍の中)論文討議の時だけ京都に戻っていました。私とは主にラインでのやりとりでしたが幸運の女神、コウノトリが舞い降りしかも双子の男女の赤ちゃんでした。急遽エストニアへ引き上げて無事に出産したのは2021年末の事でした。

そして改めての結婚式の招待状が送られてきたのが昨年2022年8月でした。関西ではコロナ感染者数増加が連日報道され猛暑とステイホームに気分も鬱ぎ込む最中でした。詳細に日時とルーマニアのとある地方の空港までのアクセス、トランジットすべき航空機の便まで調べてありました。突然の外つ国(外国)での招待状に戸惑いましたが本人達の幸せ感にただただ私も別世界、夢の世界に暫し逃避できました。残年ながら此方の参加出来ない目下の状況を二人はよく解ってくれました。先日、結婚式当日前後の写真200数十枚がライン経由のホームページで送られてきました。ルーマニアは、チャウシェスク政権下での大変な時代があったのは誰もが知るところですが、歴史的にも伝統あるしっかりしたアイデンティティある国です。新婦の民族衣装の準備からスタート、木造の古民家や大家族のたくさんの人達との歌あり踊りあり抱擁ありの長い長い時間をかけたゆったりした祝宴です。まさに我が村の一大イベントの様相です。広々とした素朴でのどかな村の雰囲気は全面に溢れています。二人の華やかなドレス姿のベビーちゃん達も表情豊かな健康そのものです。今の日本にはない根源的な人間味に感じ入り余韻に浸る日々が続いています。二人が日本をこよなく愛し日





本の研究レベルの高さを評価羨望する気持ちに改めて誇りにしたいものです。留学中、二人は自分たちの国は貧しいからと何度も繰り返していました。コンビニや電車バスは使わずママチャリの愛車で京都市内の格安店を回っていました。ちなみに我が家来宅の折にも京大近くの左京区阿達町から西京区桂の洛西までママチャリでやってきた留学生は後にも先にもこの二人だけです。話が盛り上がり深夜近くに送り出す私は無事に帰れるか心配しましたが「私たちはスピードを出さずゆっくり帰りますから大丈夫です」と穏やかに言ってくれました。真の豊かさとは何か？今一度私自身に問いたい気持ちです。我が家での手作り料理、殊に「柿の白和え」に感動した二人を、いやベビーちゃん達共々四人を我が手料理で再びおもてなししたいのが今の気持ちです。

『日本はクール ビューティー』

島田弘子

私の関わるタイのファーンさんは、2022年3月京大大学院を卒業して地元京都へ就職。会う時間は減りましたが、LINEで近況確認です。このお正月はタイへ帰国、リフレッシュできたようです。現在私は、タイの学生さん3人と交流しています。

さて、今回は『外国人から見た日本』をお伝えしたいと思います。

KAHFメンバーには今更の情報かも知れませんが…。(笑)

- ◎日本に来て嫌な思いをした事がない。
- ◎礼儀正しい 親切 静か 治安が良い。
- ◎英語が話せなくても親切にしてくれる。
- ◎文化 伝統が深い。
- ◎サービスの質が良すぎる。
- ◎コンビニの質が高い。
- ◎コンビニ商品を全てたべつくしたい。
- ◎電車の時間が正確。
- ◎自動販売機が便利。
- ◎自然が豊か過ぎる。
- ◎ゴミが落ちてない。
- ◎日本食がおいしい、レパートリーが豊富。
- ◎食材が新鮮で、生卵が食べれる。
- ◎和牛が最高。
- ◎お菓子がおいしい。
- ◎アニメやコスプレがクール。

いかがでしょうか日本人の気づかない日本。私達の思う以上の熱烈評価ですね。

私もこのコメントには驚きました。

先日ドバイから来た五人家族と話しました。『日本が好き過ぎて、五回目の来日です。』さすがドバイ、すごいです!! Withコロナですが、楽しみましょう。



“なんだか“楽しい仕事？”

A5 澤田京子

明治という時代に米国のタコマへ留学していたという祖母（父の母）の話を、父や祖父から聞いて『外国で暮らすってどんなだろう？』とか『言葉は自然にわかるようになるのかな？』とか『そもそも外国ってどんなだろう？』と漠然と外国に興味があった。

しかし、父は『母には（当時の世の中では通用しない）男尊女卑否定や独立独歩の考え方が身につけてしまい、あまり幸せな一生ではなかった』ということをやったので、外国で暮らしてみたいとは思わなくなった。——というのはい訳で、要するに目標に向かって努力するのはシンドイからイヤだったのだ。

〜〜時が流れ〜〜就職し、結婚し〜〜仕事も退職し、さて〜〜という時 「KAHF というのがあって、やってみないか」というお話をいただいた。

この頃、中国残留帰国者対象の日本語教室のボランティアをしていたが、中国とはまた別の国のことが解るかもしれないと思って仲間に入れてもらうことにした。いざ、始めてみると“教室”と全く違ってご飯をたべながらいろいろなことを聞くことができるし、学生さんは「友達を連れていきます」と言って、いろいろな国の人たちをさそってきてくれる。私としてもお惣菜を通して、日本の行事や習慣を説明できる。すると「おもしろい！ありがとう。また来たいです！」なんて言ってくれる。つまり“楽しい”のだ。 いながらにして世界を広げることができるKAHFのボランティアに出会えてよかったナア・・・と思っています。

謝謝。Thank you.



アメリカからの医学部留学生
彼女のafterSchoolはモデルの仕事



明日も良い一日でありますように❤️N.H